

# With

## ウィズ

～私たちが私たちに楽しく暮らせる地域づくりを  
みんなですすめようという意味を込めています～

西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課 生活支援コーディネーター

小薮（全市域・甲陽園）・高井（中央）・高田（鳴尾）・牧（瓦木）・中川（甲東・山口）・北山（塩瀬）  
※山口地域と塩瀬地域は生活支援コーディネーターと地区担当者を兼務（北山は地域福祉課所属）

〒662-0857 西宮市中前田町1-23 地域共生館ふれぼの内

TEL(0798)61-1361 FAX (0798)61-1409 kyoseimachi@n-shakyo.jp

### 生活支援コーディネーター かつどうトピックス

### 甲子園浜地区の法人連携ネットワーク ～浜甲トライあぐる～



小地域内でつながっていくことで、地域のニーズに寄り添った社会福祉法人等による活動が生まれてきています。



「浜甲トライあぐる」は、顔が見える横のつながりを目指して、情報共有や地域課題の解決にむけた協議を進めるネットワークです。メンバーは社会福祉法人（円勝会、豊中ファミリー、豊中福祉会）と、一般社団法人まちなね浜甲子園、市社協です。それぞれの所在地を線でつなぐと三角形になること、また、地域を見守る視点（あぐる）を持って様々なことにトライしていこうという想いを込めて「浜甲トライあぐる」と名付けました。

甲子園浜地区は市内で最も高齢化率が高い地域です。日中、認知症と思われる方が道に迷っていたり、困っている様子を見かけたりすることもあります。そこで、「浜甲トライあぐる」で何かできることはないかと、各施設の送迎車が中心となった見守り活動の仕組みづくりを進めています。

### 生活支援コーディネーター訪問記 “ええもん めっけ”

### 本が育む子どもと大人の心豊かな居場所 竹の子文庫

今回紹介するのは“家庭文庫”としてご自宅を開放されている「竹の子文庫」さんです。

今年50周年を迎えられ、今もご家族で、地域の子もたちが安心してつどえる場所を大切に守り続けておられます。

瓦木圏域生活支援 Co・牧

竹の子文庫さんは、地域にある身近な図書室として、子どもが安心して読める児童書を中心とした本を選び、子どもも大人も気軽に足を運ぶことができる居場所づくりをされています。

昭和45（1970）年から、お母さんと3人の娘さんとともに、春・夏・冬休み以外の毎週木曜の午後、一日も休まず続けてこられました。会員はのべ1,500人を超え、親子3代で通う姿もみられます。気に入った本は“きまり”を守って借りることもできます。“きまり”は子どもが理解しやすく、みんなが自覚をもちやすく設けているので、子どもも大人も安心して行ける居場所です。

### 「おはなし会」でつながる“人とこころ”

文庫では「おはなし会」として、集まってきた子どもを対象に、ストーリーテラー（語り手）が覚えてきた物語を聞かせます。目で読む本とはちがうお話の世界は、聞く大人も語る大人も物語の世界に浸ることができます。

最後はひとり1つずつ願い事をしながら、ろうそくの灯を消して終わります。

お話の余韻をみんなで味わうことで、人と人の心もつながっていきます。



pick up

# 共生型地域交流拠点とは？

「共生型地域交流拠点」は地域活動（昼食会やサロン等）やつどい場などの居場所づくりの経過から生み出された常設の活動拠点です。市内、3拠点を先行実施、今春2拠点が新たに生まれます！



- 「共生型」＝ 老若男女・障害の有無に関係なく
- 「地域」＝ 同じ地域に住む人たちが
- 「交流」＝ おしゃべりしたり、心配なことを相談したりできる
- 「拠点」＝ 中心の場所、その地域でいつでも行ける場所

場があることで生まれる♪

## 共生型地域交流拠点 3 つの魅力

### ①「つながりや自然な見守り」が生まれる



↑今津地区：ふくふくサロン  
自然と顔見知りの関係に

ほぼ毎日開設しているので、いつでも誰でも訪れることができます。

そうすることで、「今日はあの人来ていないね？」と、参加者同士、自然と気にかけてあつながり生まれています。

また、最近見かけず気になる方には拠点運営者が連絡することもあり、「常設」だからこそ見守りの効果も高まっています。

### ②「参加者主体」の活動が生まれる



↑鳴尾東地区：まちCafé なごみ  
住民も企画に加わりマルシェ開催

拠点では、参加者自身が「やってみたい！これならできる！」と思う活動を実現できます。拠点運営者が、来ている方たちの声に耳を傾け、活動や人につないでいるためです。

参加者一人ひとりが役割をもって主体的に活動できることが、拠点の魅力の一つです。

### ③「ネットワーク」が生まれる

参加者の中には、生活の困りごとを抱えている人もおられます。その場合にはじっくり話を聞き、必要に応じて相談機関（地域包括や民生委員等）につないでいます。困りごとをそのままにしないことで、地域住民や専門職とのネットワークが生まれています。

また、拠点立ち上げにあたっては、地域みんなの拠点にしていくために、地区社協や民生委員、自治会や青愛協、居場所づくりに思いを持っている住民の方等と協議を重ねています。その過程を通して、地域の様々な組織・団体とのネットワークづくりも目指しています。



↑安井地区：ふれぼのカフェ  
地域の方や専門職と座談会

## 共生型地域交流拠点 開設 Q&A



### Q.どこに作っていくの？

A.地域活動やつどい場等をつなぎ合わせられる中核的な拠点として、地区社協のエリア単位に基本1か所、全市に36か所の開設を目指しています。

### Q.開設に補助金はある？

A. 週5日 1日6時間以上の開設で、年間500万円を上限に、西宮市から運営補助金がでます。開設から2年以内は、週3日開設（補助金上限300万円）も可能です。

開設時に必要となる工事費等については上限200万円の開設補助金があります。

拠点の立ち上げについては生活支援コーディネーターがサポートしています。お気軽にご相談ください♪

### Q.どうやってつくるの？

A.地区ネットワーク会議等を活用し、その地域に必要な拠点の在り方を協議・検討しながらつくっていきます。地域みんなの居場所にするためには、まずは話し合いの場が大切であると考えています。

### Q.だれが運営しているの？

A.地域住民が拠点運営者になり、専門職等の協力を得ながら運営しています。補助金を運営者の人件費に充てることもできるので、新たな人材発掘・人材育成の機会につながります。

New

今春オープン  
新たな拠点！

- 春風地区 すまいるサロン春風
- 西宮浜地区 はまCafé マリナふらっと

市内の拠点が5か所になります！立ち上げの経過等、詳しい内容は今後のWithに掲載予定です♪

